

3-11

重度認知症の受け入れ時の情報共有のあり方

認知症

特別養護老人ホーム 東京武蔵野ホーム

ショートステイ相談員 稲田寛美	
東京都板橋区小茂根4-11-11	
TEL: 03-3959-7421	E-mail: short@komonenosato.com
FAX: 03-3959-7438	URL: http://www.komonenosato.com

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人小茂根の郷の東京武蔵野ホームは、板橋区に平成9年開設しました。特別養護老人ホーム60床に併設され7床のショートステイを受け入れております。できるだけ在宅生活継続に支障のないケアを職員一同心がけています。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

ショートステイの利用者が入院や他施設へ入所することが増え、これまで以上に新規利用者を増やす必要性が高まった。

利用希望者は以前と比べて重度の認知症の人が増加していた。職員も家族も安心して利用できるよう情報収集と提供の仕方を見直した。

〈具体的な取り組み〉

昼夜逆転や徘徊のある人の場合は、夜間に他の利用者に迷惑をかける、足元がふらつき転倒の危険があるなど家族に伝え、施設内では1対1の介護ではないということの説明し理解したうえで利用を勧めた。

重度の認知症の人の場合は、事前の面接の際に必ず主治医にショートステイを利用すること、不穏になってしまった時の職員の対応について相談してもらうよう家族にお願いした。主治医はショートステイが集団生活であることを踏まえて、夜間他の利用者への影響や本人の体調などを考えて屯用薬の処方など利用にあつたての協力をしてくれた。

入所時は、家族から自宅での様子を詳しく聞き取り職員に口頭で申し送った。その他に全ての職員に情報の共有ができるように送り表を作成し文章でも伝えた。不穏な利用者には内服薬を屯用で処方してもらっていることも説明した。職員もすぐに薬を使用するのではなく屯用の薬が処方されているということで安心してケアができた。

新規利用者や初めて薬を使用する利用者の場合は手探り状態のため2,3日様子観察を行った後、介護の方針を介護職員、看護師で相談して決定した。決定まではフロアで様子観察を行うよう徹底した。

職員が疑問を投げかけてきたことに対して家族に連絡を取り早急に解決するよう心掛けた。

退所時には詳しく利用中の様子を口頭と文章で家族に伝えた。担当のケアマネジャーへも同様のものを送付した。

以前と状態が変わっていれば、早急にケアマネにも連絡を取り担当者会議など開催してもらうようお願いした。

〈活動の成果と評価〉

利用者とその家族が、在宅介護を継続するために必要な情報を集約し、職員へ申し送ることにより、利用者への対応が変わってきた。

例えば、昼夜逆転の人には、できるだけ日中の活動に参加してもらい生活のリズムを整えた。立位が可能な人には車椅子で移動後に椅子への移乗を行った。食事の形態をご飯からおにぎりに変更し自力で食べるよう勧めたり、居室内も自宅と同じような配置に設置したり、相談員と職員や看護師が常に情報を交換を行い、利用者のペースにあったケアと家族のニーズに合わせた介護ができるようになった。

その結果、「皮膚が赤くなっているので家族に連絡しなくて良いか?」「利用中にこんなことができるようになった」など職員が伝えてくれるようになり、利用中の利用者一人ひとりの情報を得ることができた。

入所時に家族から得た情報に対して、退所の際詳しく伝えるように心掛けた。それにより家族はその情報を参考にして自宅に戻ってからでもケアを継続したり、ケアについての相談をされたりするようになった。

利用後の感想として、ケアマネジャーや家族から「生活のリズムが戻って自分たちも夜眠れるようになった」「とても元気になって帰ってきた」「自分で食事をするようになった」「ショートステイを利用するなら安心して利用できる小茂根にお願いしたい」など信頼を得ることができ、継続希望者やその家族や担当のケアマネジャーから紹介されて新規の利用者が増えた。

〈今後の課題〉

医療行為の必要な人たちも増えている。施設側としてはどの程度の医療行為であれば受入可能か、また在宅同様の対応ができるか看護師と話し合い、その結果施設内でできる範囲の対応を伝え家族と妥協点を見つける。その対応をスムーズに対応できるよう書類を新しく作成し、受け入れに取り組んでいきたい

【メモ欄】